

## STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき 課題
1	ア, イ, ウ, エ	1.医療費分析と患者数分析 ・R2以降受診者数は微増、一人当たり医療費が急増し、今後も継続する可能性がある。 ・疾患別では内分泌・栄養・代謝疾患が医療費に占める割合、呼吸器疾患が受診者数・医療費に占める割合が大きい。 ・年齢別では、小児の呼吸器疾患と皮膚科疾患、40～50代の生活習慣病、65歳以降の疾病の重症化が課題である。	➔	医療費適正化、医療費総額と一人当たり医療費の伸びの抑制、医療費の適正化を目指す。 ・職場環境の整備、コラボヘルスの推進 ・職場と加入者の健康リテラシーの向上 ・適正医療の推進	✓
2	オ, カ, キ	2.特定健診分析 ・特定健診受診率において組合合計は国の目標85%をクリア、被保険者は98%代を維持している一方、被扶養者25%前後と低い。 ・内臓脂肪症候群該当者が多い(男性に多い、加齢とともに増加、高血圧該当者が多い、高血圧・高血糖・脂質異常を併せ持つものが年齢ともに増加)。 ・健康リスク保有者が多い(特に内臓脂肪型肥満と糖尿病リスクが増加)。 ・生活習慣リスクのうち、特に喫煙者と多量飲酒者、運動習慣不良が多い。	➔	メタボリックシンドローム判定の有所見者の減少、健康リスク保有者の減少、適正な生活習慣保有者の増加を目指す。 ・特定健診受診率の向上 ・健康リテラシーの向上 ・生活習慣の改善(喫煙、飲酒、運動)	✓
3	ク	3.特定保健指導分析 ・特定保健指導実施率は増加し国の目標30%達成。しかし、事業所や地域による格差、被扶養者の実施率の低さがある。	➔	特定保健指導実施率の維持・向上、 特定保健指導実施参加者の健診データの改善	✓
4	ケ, コ, サ, シ, ス, セ, ソ, タ	4.健康リスク分析 ・内臓脂肪型肥満、血糖、脂質のリスク保有者が増加傾向である。 ・将来的な重症化の危険性のある血糖、血圧、腎機能のハイリスク対象が一定数いる。 ・生活習慣病は医療費と患者数に占める割合が最大で、最重要課題は糖尿病と高血圧であり、加齢に伴う影響もある。また、悪性新生物とメンタル系疾患は若い現役世代から顕在化し、休職の問題も招く。一方、アレルギー性鼻炎は全世代にわたって割と高額で、特に小児で顕著である。	➔	職場と加入者の健康リテラシーの向上、疾病の早期発見・早期治療・重症化予防を推進し、健康リスク保有者とハイリスク対象を増やさない。 ・生活習慣病対策 ・がん対策 ・メンタルヘルスケア ・季節性疾患対策	✓
5	チ	5.後発医薬品分析 ・後発医薬品の使用割合の現状を維持する。	➔	後発医薬品の利用促進を維持する。	

## 基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	飲食料品以外の小売業となる総合健保組合で、適応事業所数は34事業所、被保険者4,773人、加入者8,509人である。被保険者の81.5%は男性、年代としては40代が最も多い。	➔	被保険者はメタボリックシンドローム該当者が好発する年齢や性別の構成である。
2	事業所の拠点内訳、仙台市内に6割、市外・県外に4割が点在している。	➔	事業者の所在地により健診や保健指導の保健事業の利便性に差が生まれやすく、参加率や終了率の事業所間格差、地域格差がある。
3	健康保険組合には常勤医療専門職は不在である。	➔	健保連の共同設置保健師のサポートを受ける。健保担当者の指示の下の活動であり、活動量や内容が限られる。

## 保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	特定健診受診率、特定保健指導実施率について国の目標を達成している。	➔	いずれも被保険者は高いが、被扶養者が低調であることが課題である。 事業所の所在地によって利便性の良し悪しが実施に影響しやすい。
2	健診以外の事業は参加率が低い。	➔	利便性に公平性を保てるよう、外部委託やICTの活用など、参加しやすさへの工夫が必要である。